

**CASBEE-広島 2014年版**  
 (仮称)日本通運(株)広島支店 事務所ビル新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-広島 2014年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-			<b>3.5</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.6</b>	0.15		-			<b>3.6</b>
1.1 騒音		3.0	0.40		-			
1.2 遮音		<b>4.2</b>	0.40		-			
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能T-2	5.0	0.62		-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.38		-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-			
1.3 吸音	壁・天井の2面に吸音材を使用している	<b>4.0</b>	0.20		-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.4</b>	0.35		-			<b>3.4</b>
2.1 室温制御		<b>3.8</b>	0.50		-			
1 室温		3.0	0.38		-			
2 外皮性能	複層ガラス(Low-E+Air+透明)を採用している	5.0	0.25		-			
3 ゾーン別制御性	ゾーン別に冷房・暖房の選択が可能	4.0	0.37		-			
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20		-			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30		-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.7</b>	0.25		-			<b>2.7</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.31		-			
1 昼光率		1.0	0.56		-			
2 方位別開口			-		-			
3 昼光利用設備		3.0	0.44		-			
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.28		-			
1 グレア制御		3.0	1.00		-			
3.3 照度	2階事務室1の照度が720lx	<b>4.0</b>	0.14		-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.26		-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.3</b>	0.25		-			<b>4.3</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50		-			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を全面的に採用している	5.0	1.00		-			
2 アスベスト対策			-		-			
4.2 換気		<b>3.6</b>	0.30		-			
1 換気量	シックハウス用の換気量が1.4倍以上	5.0	0.34		-			
2 自然換気性能	2階事務室1の自然換気開口面積1/14	5.0	0.32		-			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.34		-			
4.3 運用管理		<b>4.0</b>	0.20		-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50		-			
2 喫煙の制御	喫煙室が設けられている	5.0	0.50		-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>		-			<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.7</b>	0.40		-			<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.3</b>	0.40		-			
1 広さ・収納性		3.0	0.31		-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.31		-			
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている	4.0	0.37		-			
1.2 心理性・快適性		<b>4.0</b>	0.30		-			
1 広さ感・景観	事務室の天井高2.7m	4.0	0.33		-			
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機が設置されている	5.0	0.33		-			
3 内装計画		3.0	0.33		-			
1.3 維持管理		<b>4.0</b>	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した取組みが8つある	4.0	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保	維持管理用機能の確保のための取組みが9つある	4.0	0.50		-			
3 衛生管理業務			-		-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	0.30		-			<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.50		-			
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.8</b>	0.30		-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁に金属断熱サンドイッチパネルを採用	5.0	0.20		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水・排水管にBを使用、Eは不使用	5.0	0.20		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-			

<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.2</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	空調・換気設備の信頼性の評価ポイントが2つある	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高が3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.142	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	主要機器設備の更新に対応した仮設スペースがある	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.9</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		まちなみ・景観に対して、充実した配慮が行われている	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	評価する取組み表の評価ポイントが13ポイント	<b>4.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> =0.84	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			3.0	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI 非住宅 0.76 住宅(専有部) -	<b>4.0</b>	0.50	-	-	<b>4.0</b>
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI <sub>m</sub> =0.76	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		自動水栓、節水型器具を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.6</b>	0.60	-	-	<b>3.6</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		タイル、ビニル系床材、舗装用ブロック、硬質ポリ塩化ビニル管	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		評価する取組み表の評価ポイントが1ポイント	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率82%	<b>3.7</b>	0.33	-	-	<b>3.7</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	評価する取組み表の評価ポイントが4ポイント	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン9項目該当、広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	